

善光寺だより

善光寺住職四男黒田賢志得度式

八月二十四日、善光寺住職黒田武志四男賢志君の得度式が、釈迦殿において行われた。

佐藤俊明老師から次のような得度の祝偈をいただいた。



賀賢志君之得度
掌中ノ珠磨イテ
賢志染衣シテ 大聖ト宣ス
男四悉皆為ル佛子ト
善光寺畔放レ光ヲ鮮ナリ

善光寺六地蔵開眼法要行わる

善光寺住職永年の念願であつた石造りの六地蔵開眼法要が九月二十一日、佐藤俊明老師を導師に迎えて行われた。法要のあと萩原玄明老師の講演があり、靈能力の話など大変好評であつた。

萩原老師は真言宗醍醐寺派長江寺福淨院住職で、『死者は生きている』の作者として知られている。



講演中の萩原老師



善光寺六地藏開眼香語

代受願深地藏尊

代受の願いは深し

六道能化尽乾坤

地藏尊

尊願仰觀如圓月

六道を能化して
乾坤を尽す

正是善光大悲門

尊顔を仰ぎ觀れば
圓かなる月の如し

正に是れ善光

大悲の門

善光寺文化講演会

海外留学僧派遣育英会が総会



十一月二十五日(日)

午後二時より“激動する世界を旅して”と題して、伊藤博先生が講演された。伊藤先生はニューヨーク州立大学教授で当山育英会顧問です。昨年三月から九月まで十六カ月を訪問して感じた世界の情勢をお話して下さいました。次号に伊藤先生の原稿を掲載いたします。

乞ご期待!!

善光寺海外留学僧派遣育英会（黒田武志理事長＝善光寺住職）は第五回総会を十月二十日正午から、事務局のある横浜市港南区日野町一六〇四の曹洞宗善光寺で開催し、行事計画として、海外留学僧の論文集の出版や、新しく顧間に曹洞宗の大本山總持寺元監院で北海道釧路市定光寺住職・大道晃仙氏と東京・駒込吉祥寺住職岩本昭典氏を加え、留学僧のうち大学の教授・助教授クラスを同育英会の講師とすることなどを決めた。総会後、同育英会の参与である写真家の駒澤晃氏が出版した『一隅を照らす玲瓏の人々』（日本教文社刊）の出版祝賀会も催された。

本堂で黒田理事長の導師により法要が営まれた後、総会に入った。宮本延雄理事（鶴見大学歯学部事務部長）、黒田理事長の挨拶に続いて、佐藤俊明常務理事（曹洞宗龍光寺住職）が「わ

ずか六年間に世界八ヶ国に二十九人の留学僧を

送り、それぞれの国で研鑽いただいてること
は意義深い。物事を継続していくことは大変難
しいことだ。これからは育英会内部で新しい動
きをしなければならない時だろう」と話した。

来賓として、曹洞宗神奈川県第二宗務所第五
教区の岩波道俊教区長（横浜市戸塚区・福泉寺
住職）が「私の弟子もアメリカへ出させていた
だき、感激している。毎年の教区報告の第一番
に当山のことを書かせていただいている」と挨
拶。新美昌道事務局長を議長に選んで議事を進
めた。

はじめに桐元大智事務局員が昨年度の行事を
報告。続いて黒田理事長が今年度の行事計画に
ついて説明し、①留学僧の論文集を中外日報社
から出したい②台湾、カンボジア、ベトナムへ
取材旅行を実施したい③顧間に大道晃仙定光寺
住職と岩本昭典吉祥寺住職を推選したい——と

提案、いずれも満場一致で承認された。

台湾取材は今年十一月十一日から十四日ま
で、黒田理事長、佐藤常務理事、阿部慈園参与



(東方学院講師)、駒澤参与の四人で実施し、善光寺の末寺である福寿院の姉妹寺を訪問する計画。平成三年度の行事予定は、一月に第七回留学僧を発表、二月に機関誌『成寿』第十六号を発刊、三月にカンボジア・アンコールワット取材、論文集発刊となつてている。

このあと、留学僧十人が近況報告と抱負を交えて自己紹介。海外から日本への留学僧もおり、それぞれが海外留学を自己の貴重な体験としてどう生きるかを考えて実践していることを報告した。

また、緊急動議として、留学僧の中で大学の教授・助教授の職責をもつ者を同育英会の講師とするよう規約変更が黒田理事長から提案され、これを承認。該当者として第四回生の星宮智光氏(叡山学院教授)、第五回生の引田弘氏(愛知学院大学助教授)、第六回生の森祖道氏(城西大学教授・東京大学講師)が講師に就任するこ

とになつた。

この後、森祖道氏が、スリランカ国立ケラニア大学パーザリ学仏教大学院に新設された日本仏教に関する研究教育講座を担当する初代客員教授として招聘された体験をもとに、約三十分記念講演した。

涙と笑いで激励 駒澤晃氏の出版祝賀会

育英会の総会に引き続いて駒澤晃氏の新著『一隅を照らす玲瓏の人々』の出版祝賀会が善光寺海外留学僧派遣育英会の主催により開催された。

これは、駒澤氏が同育英会の参与として『成寿』のグラビア写真を担当し、黒田理事長とは親しい間柄であることや、また、日本の各所で一途に仕事をしている人たちを紹介した同書の最初に黒田理事長が取り上げられていることなどから、黒田理事長が発起人となつたもの。

集まつたのは、駒澤氏が著書の中で紹介した人たちや、有縁の人、駒澤氏を慕う人たち。本堂で法要の後、黒田理事長が「御縁により育英会で祝賀会を開かせていただいた。聞けば先生の十一冊目の本だ。その冒頭に恥をかかせていただいたようなことだ」と挨拶して始まった。

席上、佐藤常務理事は、写真家としての駒澤氏の活躍とともに、その人柄を讃えて次のように祝辞を贈つた。

「先生は令名高い写真家で、文芸春秋や朝日新聞等で優れた写真を発表されている。それにも

まして有り難いことは、奥様と共に、ライフレイクとして仏像写真と取り組まれていてことだ。豪華な写真集も出されており、私どもは足を運ばずに三世の諸仏にお逢いでできる法悦を味わわせていただいている。

が、人の善意善行をありのままに紹介して下さることが大変嬉しい。先生は、自然光で写真を撮られる。そのように、人の自然な玲瓈の姿を書いておられる。道元禅師のお言葉にあるように、むさぼりも、へつらいも無い、すつきりとした本として感銘深く読ませていただいた。

もう一つ、行間にほのかに玲瓈の人が浮かんでくる。それが妻という名で出てくる奥様だと思う。写真家の大変な仕事を支える奥様がつて、初めて駒澤先生があると思い、奥様にも願意を表したい」

また宮本理事は「三時間ほどで一気に読ませていただいた。黒田理事長について、まさに心眼でとらえてお書き下さつており、純粹な気持にさせられた思い。素晴らしい本を世に出され、お祝いと共に感謝申し上げる」と述べた。

一億総評論家の時代と言われ、人の隠している所を暴き出すのが優れた評論と見られている

駒澤氏が朝日新聞長野支局時代から「心の支え・恩人」として慕う朝日新聞社の富森叡児常

務は、「駒澤君は温厚のように見えて、なかなか頑固者だ。東京に出て苦労をしていると思う。

初心を貫く頑固さ、そして、目立ぬように、ずっと支えてこられた奥さんとの出会いが大きな力になつたと思う」と激励を込めて祝いの言葉を贈つた。

日本教文社の永井光延第二編集部長の発声で乾杯し、駒澤夫妻に花束が贈呈された。駒澤氏は「朝日新聞あつての駒澤だつた。朝日を出て、たくさんの人々のお世話になつて今日の私がある。ただ皆様のお力をいただき、今まで生かせていただいている」と謙虚に謝辞を述べ、著者の中紹介した人々、この日参加した友人、知人を一人ずつ紹介し、また逆に一言ずつ参会者から心のこもつた言葉を受けて、涙あり笑いありのうちに散会となつた。

第七回海外留学僧採用者決定

善光寺海外留学僧派遣育英会（黒田武志理事長、事務局＝横浜市港南区日野町一六〇四・曹洞宗善光寺内）は、このほど第七回留学生として五人を採用し、二人を継続採用することを決定した。辞令伝達式は二月五日に善光寺で行なわれた。同会が昭和六十年度から採用してきた育英生は、これで九ヶ国に三十四人にのぼる。

新しく採用された育英生は、落合隆（曹洞宗で得度）、品田裕淳（真言宗豊山派僧侶）、早川敦（東北大学大学院博士課程）、曹良淑（立正大学大学院修士課程＝韓国曹渓宗）、李煥秀（東洋大学文学部印度哲学科＝韓国曹渓宗）の五氏。継続採用者は、曹洞宗の沖田玉映、東京大学大學生の金秀娥（韓國曹渓宗）の二氏。

落合氏は社会人として生活する中で発心し、善光寺の黒田住職に就いて得度。タイの僧伽に

身を投じて上座部仏教の修行をし、僧侶としての道を歩む決意で留学僧に応募した。四十歳。推薦人は駒沢大学の鈴木格禪教授。

品田氏は大正大学仏教学部に入学する時、将来、僧侶になることを夢みて仏門に入った。その頃から、タイの僧院生活を経験したいと希望しており、応募。現在は豊山派普賢院の徒弟。推薦人は青森県の曹洞宗常現寺住職高山元延師。二十四歳。

早川氏は東北大学文学部を卒業後、同大学大学院文学部博士課科前期二年の課程に入り、印度学仏教史学を専攻。サンスクリットを中心とした語学の修得とインド文化史の研究を志して東洋学研究の伝統があるオランダへの留学を希望、塚本啓祥教授の推薦を受けて申請した。二十五歳。

曹氏は韓国・ソウルの中央僧伽大学を卒業して来日し、身延短期大学卒業後、立正大学に編

入。現在、同大学大学院文学研究科仏教学専攻修士課程で勉学中の尼僧。同大学仏教学部長の三友健容教授の推薦を得て、日本留学の育英生として応募した。四十二歳。

李氏は曹溪宗の通度寺で修行し、日本の東洋大学文学部印度哲学科に入学。同大学の金岡秀友教授に就いて密教を学んでいる。金岡教授の推薦を受けて申請した。二十九歳。

沖田氏はアメリカのロサンゼルス禅センターに留学中の曹洞宗の尼僧。金氏は東京大学で、とくに如来藏の研究を進める韓国曹溪宗の尼僧。いずれも第六回留学生で、今回、給費の継続を申請したもの。